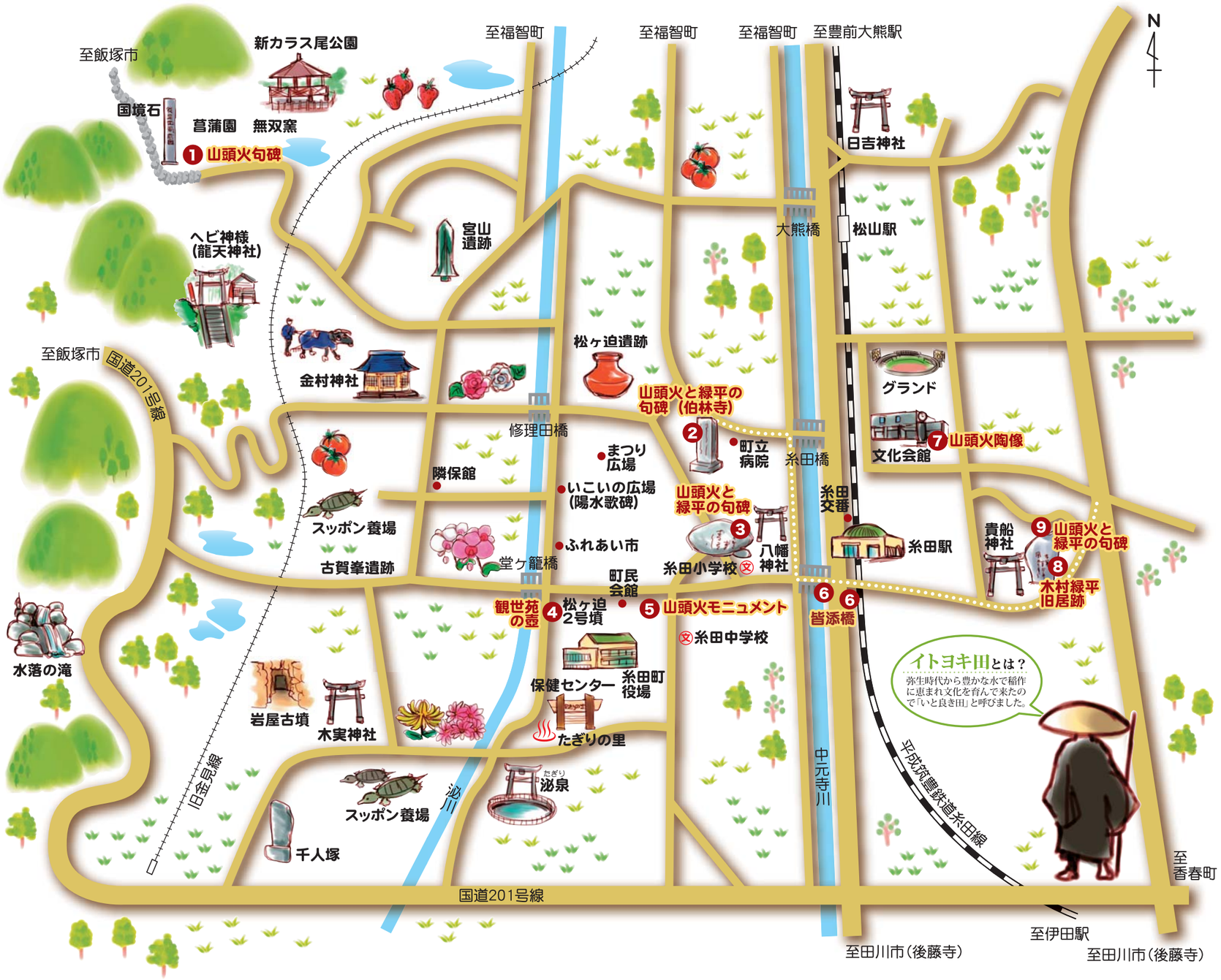
イトヨキ田の道

ここに広がるのは、弥生時代から豊かな水で稲作に恵まれた文化を育んで来たイトヨキ田の道。
遺物が物語るむかしと交流が生んだ史蹟に想いを馳せながら、今の糸田を歩いてみらん？



糸田 ぐるり歩く

糸田町散策MAP

清らかに湧く泌泉と豊かに広がる稲田、
漂泊の俳人を癒した糸田。
一緒にぐるっと歩いてみらん？

お問い合わせ
糸田町役場産業経済課　☎0947-26-4025
http://www.town.itoda.lg.jp

山頭火（さんとうか）と緑平（りょくへい）の道

❶山頭火句碑（国境石の横）

迷うた道でそのまま泊る　山頭火

❷伯林寺参道

雀生れてゐる花の下を掃く　緑平
逢ひたいボタ山が見えだした　山頭火
（緑平句と併刻）

種田山頭火と木村緑平

山頭火を語るとき、忘れられない人物がいます。石炭が地域を支えていた、昭和2年から13年ごろ、明治豊国鉱業所病院に木村緑平という医者がいました。

山頭火が山の神（やまのかみ）の職員社宅にワラジをぬぐと、奥さんが風呂を沸かし、酒と肴でもてなし、あとで蓄音機をかけ旅情を慰めます。「かういふ一日は一年にも十年にも値する」と山頭火に言わしめます。山頭火日記の中で、ただ一人「心友」と特記されています。

緑平の本名は好栄（よしまさ）、山頭火より6歳年下です。明治21年、福岡県三潴郡浜武（みずまはまたけ）村（昭代村からS30年柳川市）に生まれ、長崎医専（現長崎大学）を卒業しました。子宝（こだから）に恵まれず、生涯、3千句以上の雀の句を詠んだ「層雲」の俳人でもあります。

緑平は、医師免許取得後、最初の11年間、三井三池鉱業所病院に勤めます。昭和2年から11年間、明治豊国病院に勤務、続く4年間系列の明治赤池鉱業所病院に勤め、昭和17年炭鉱医をやめ柳川に帰ります。

この間、山頭火は三井三池時代緑平居3回、糸田緑平居15回、赤池緑平居4回訪問しています。

逢ひたいボタ山が見えだした（S5.11.29日記）

糸田緑平居から谷一つへだてて、明治豊国の貴船ボタ山がそびえていました。

枝をさしのべてゐる冬木（S5.11.27日記）

しんかんと並び立つ桜の老樹、さしのべている枝は緑平老の手でもあったのです。

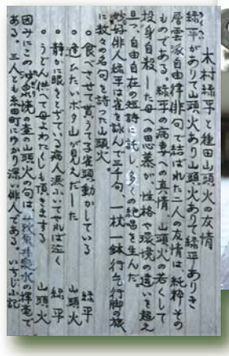
二人の交遊は大正8年4月に始まり、コロリ往生を遂げる昭和15年まで続きます。緑平の物心両面の支援に報いる何物もない山頭火は、21冊の日記を緑平に託します。二人の友情について、まず第一に考えられることは、緑平が無名の山頭火の句に確かな未来を予見したことにあると思います。次に、炭鉱労働者の明日をも知れぬ生活です。自らの命と引き替えに家族を養い、会社や国を富ましていました。彼等の診療によって得た報酬を、緑平はとても一人占めする気になれなかったとおもいます。ひたすら山頭火に喜捨（きしゃ）し、自らも救われていたのではないでしょうか。

❼山頭火陶像

❸糸田小学校正門横

ふりかへるボタ山ボタン雪ふりしきる　山頭火（西面）
かくれん坊の雀の尻が草から出てゐる　緑平（東面）

❹観世苑（かんぜえん）の壺
（壺に下記の山頭火句が“もじり”されている。作成は昭和20年代）



はるかぜのはちのこひとつ　山頭火

❺県道端「モニュメント」糸田町（役場前）

子雀のあまえてゐる声のしてゐる朝月　緑平
ボタ山ならんでゐる陽がぬくい　山頭火（緑平句と併刻）

❻県道香春糸田線の皆添橋
東高欄（こうらん）親柱、
鋳鉄板（ちゅうてつ）レリーフ

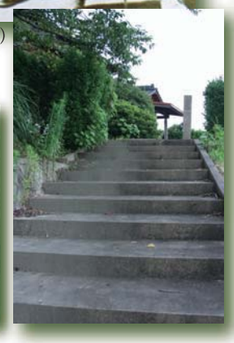
逢ひたい捨炭山（ぼたやま）が見えだした　山頭火

枝をさしのべてゐる冬木　山頭火（緑平句と併刻）
雨ふる子のそばに親の雀が来てゐる　緑平

❾鉱長坂上

木村緑平（中央）

❽旧緑平旧居下



逢うて別れてさくらのつぼみ
山頭火（北面）
聴診器耳からはづし風の音きいてゐる
緑平（南面）